

令和3年度第3回 広島城の展示整備に関する懇談会 議事要旨

1 懇談会名称

広島城の展示整備に関する懇談会

2 開催日時

令和3年12月27日（月）14:00～16:00

3 開催場所

広島市役所本庁舎2階 講堂

4 出席委員等

(1) 委員

秋山伸隆委員（座長）、城市真理子委員、西村晃委員、上田宗冨委員、金城一國齋委員

(2) オブザーバー

広島城高野館長、本田学芸員

(3) 事務局

広島市市民局 文化スポーツ部長、広島城活性化担当課長、株式会社丹青社ほか

5 議事（公開）

(1) 広島城展示等基本計画（案）について

6 傍聴人の人数

10人（報道関係者を除く）

7 懇談会資料名

- ・広島城展示等基本計画（案）【資料1】
- ・第2回広島城の展示整備に関する懇談会 議事要旨【参考資料1】

8 議事要旨

(1) 広島城展示等基本計画（案）について

－ 事務局から資料1を説明 －

(秋山座長)

- ・ 本来であれば章ごとに分けて御意見を伺うべきかと思うが、時間の関係で、相互に関係すると思われる3～5章までと6～7章とに分けて委員の皆様の御意見を伺いたい。
- ・ まず3～5章（14～35ページ）の部分について、御意見を頂きたい。発言に当たっては資料の該当ページが分かるようにしていただきたい。

(西村委員)

- ・ 18ページに関係する部分かと思うが、第2回懇談会の後、広島市立中央図書館が広島駅周辺に移転し、そこに広島市郷土資料館が移転するという新聞報道があったと聞いている。18ページの連携の図に広島市郷土資料館が入っていないが、広島市としてはどのような機能分担を想定しているのか教えてほしい。

(事務局)

- ・ 広島市立中央図書館の移転についてだが、広島市郷土資料館が移転するのではなく、広島市郷土資料館は現在の位置のままで、そのサテライト機能をエールエールA館に置くことが検討されていると聞いている。広島市郷土資料館とはこれまでも連携を行っているので、今後も引き続き連携していく予定である。

(上田委員)

- ・ 「広島城三の丸歴史館」は非常に良い名称だと思う。
- ・ 26ページの建築位置についてだが、お城の近くの博物館は人が入りにくいと聞いている。建物の位置が数メートル変わるだけで集客数が大きく変わるという話も聞くが、御門橋と三の丸歴史館との間の距離はどれぐらいを想定しているのか。
- ・ 地下にアストラムラインの路線がある関係上難しいのかもしれないが、三の丸歴史館の位置をもう少し南に下げて、堀側に飲食店を整備することはできないか。ペDESTリアンデッキについても、まだ位置の移動は可能なのか、この位置で確定なのかによって施設入口の位置が変わると考える。これまで三の丸歴史館の建築位置や地下埋設物等についての具体的な説明がなかったように思うが、なぜこの建築位置なのかについて説明が欲しい。
- ・ 30ページからの諸室面積及び配置についてだが、多目的ホールは何名程度利用可能なのか。また、機械室及び電気室が1階に配置されているが、災害によって電気が止まってしまうという話を各所から聞いている。防水対策等をどのように考えているのか教えてほしい。
- ・ 34ページの常設展示のテーマとして記載されている「三の丸屋敷の茶室の再現」について、前回の提案を取り入れていただきありがたく思う。おそらく施設の目玉になるだろう。
- ・ 二の丸復元建物で、イベント等を実施すると説明があったが、35ページに記載されていない。飲食を伴うイベント等の需要があると思うため計画内に記載してほしい。

(事務局)

- ・ 三の丸歴史館の東側から御門橋までの距離はおよそ15メートルである。

- ・施設の配置と制約の関係については、25ページの「図4-1 主な既存施設」を参照していただきたい。建築位置を検討する際には、アストラムラインのほか、共同溝、堀川（地下河川）などの地下構造物に配慮する必要がある。
- ・ペDESTロリアンデッキは、26ページの図の位置で既に確定している。祇園新道を挟んで西側、中央公園広場にあるサッカースタジアム側から三の丸歴史館側へ緩やかに下り、三の丸歴史館の南側で地面に接する。
- ・このペDESTロリアンデッキは多くの方が利用すると考えられる上、ペDESTロリアンデッキが地面と接する辺りを歴史館の正面入口とすると、地下道を利用される方にとっても訪れやすい位置になるのではないかと考えている。南側を正面入口とし、東側にも出入口を作る。東側出入口は御門橋の正面とし、ここから二の丸へと進んでもらう動線を考えている。
- ・二の丸復元建物について、35ページにイベントを行う旨の記載がないという御指摘を頂いたが、32ページの「図5-1 展示構成の概念」には参考として記載している。イベント等は、展示事業ではなく、教育普及事業に位置付けているため、「第5章 展示計画」では参考としての記載にとどめている。
- ・多目的室は、机を置いた状態で100人程度が利用できる。中に間仕切り等を設置して空間を区切ることも想定している。
- ・機械室及び電気室についての詳細の検討は、来年度以降に実施予定の建築設計で行う。

（上田委員）

- ・26ページの建築位置について、ペDESTロリアンデッキの位置はもう動かせないとのことだが、ペDESTロリアンデッキをどこで終わらせるかは人の流れを考える上で非常に重要である。再検討はできないか。
- ・二の丸復元建物でのイベントについては、教育普及事業として記載していたとしても展示計画に記載するべきではないか。参考という言葉を外し、展示計画にも記載してほしい。

（秋山座長）

- ・上田委員の御指摘のとおり、参考という表記はやめて、本文に記載してほしい。
- ・ペDESTロリアンデッキのことは今言っても仕方ないことかもしれないが、施設の配置計画を決定する前に我々のような委員に意見を聴く機会を作っていただきたかった。今後は全体像を決める前に、各分野の専門家から意見を聴く機会を作ること検討していただきたい。

（金城一國齋委員）

- ・施設名称については、名称だけで施設の内容が伝わるような、良い施設名称となったのではないと思う。
- ・3章のテーマについて、「広島城のあり方に関する懇談会」の意見集約内容を踏まえて定めていただき、有り難く思う。
- ・5章の展示計画について、三の丸屋敷の茶室の再現を盛り込んでいただき感謝している。企画展示、収蔵庫のスペースについても、素案から考えるとかなり十分なスペースになったのではないかと。今後、調光が可能な展示設備等、文化庁が定める条件を満たせるような設備及び空間についても検討を進めていただきたい。
- ・26ページの建築位置について質問だが、31ページの平面図を見ると1階の西側が搬入ヤードとなっている。車両の動線について、どのように考えているのか教えてほしい。

(事務局)

- ・搬入ヤードまでの動線については、民間事業者が提案するにぎわい施設の配置との兼ね合いで決まってくるため、提案内容も踏まえて決定することになる。

(金城一國齋委員)

- ・三の丸歴史館の北側から堀までは何メートルあるのか。

(事務局)

- ・およそ6メートルである。

(金城一國齋委員)

- ・6メートルあれば4tトラックも十分入れると思うが、トラックは長さが7メートルほどあるので、長さが足りないということがないように十分検討していただきたい。にぎわい施設の配置検討に当たっても、車両の切り返しが問題なくできるスペースを確保してほしい。
- ・ペDESTリアンデッキは、可能であれば三の丸歴史館にかからない位置で終え、三の丸歴史館の正面入口周辺のスペースを十分に確保してほしい。

(西村委員)

- ・31ページの平面図についてだが、1階から2階に向かう階段位置が分かりにくいのではないかと。常設展示を様々な人に見ていただくためにも、2階に上がりやすくするための誘導の工夫が必要だと考える。

(事務局)

- ・東西に長い建物であるため、2階に誘導するための工夫を考えていきたい。

(城市委員)

- ・前回から収蔵・調査研究関連のスペースが増え、良かったと感じている。施設名称についても良いものになったのではないかと。
- ・先ほどから御指摘のある26ページの建築位置について、搬入口までトラックがどのように入るのか疑問に思っている。ペDESTリアンデッキの下を通るのであれば、来館者の動線と重ならないよう工夫してほしい。
- ・上田委員から御指摘があったとおり、お堀のそばの施設ということで、万一の災害時にどのように備えるかの検討が必要だと考えている。博物館施設として建築するため、機械での温湿度管理のみに頼るのではなく、機器が停止しても一定期間温湿度を保てるような構造になると思われるが、事前に対策を検討しておくことは重要である。
- ・33ページに1階と2階の展示の役割分担が示されているが、2階で「体感的」、1階で「体験」という言葉が使用されているため少し分かりづらく感じる。2階は実物資料を中心とした展示となるのであれば「体系的」や「学術的」など、別の言葉に置き換えた方がよいのではないかと。
- ・二の丸復元建物のイベント利用に当たっては、二の丸復元建物をどのような場として位置付けるかが重要なのではないかと。学術的な復元がされている場なので、建物の雰囲気や損なわないような、教育的な催しを行うのが良いと考えている。

(事務局)

- ・搬入経路については、御指摘のとおりペDESTリアンデッキの下を通るルートも考えられ、その下をトラックが通行できる高さがある。
- ・電気室及び機械室に関しては、来年度以降の建築設計において十分に検討する。
- ・33ページの展示構成の考え方についてだが、施設全体として「体験」・「体感」をキーワードにした施設にしたいという思いがある。2階にもハンズオン展示の要素を取り入れるといったイメージもあるため、「体感的」という言葉を入れている。「学術的に」という要素は「深く学ぶ」という言葉で表現しているが、御意見を踏まえ表現を検討したい。
- ・二の丸復元建物のイベント活用は現在も行っているが、できるだけ伝統文化に関わるイベントに絞って活用している状況がある。そのため、今後も建物の雰囲気を感じていただきながら伝統文化に触れられる場として活用したいと考えている。

(秋山座長)

- ・それでは次に、6、7章について、御意見を頂きたい。

(西村委員)

- ・37ページの企画展示の箇所に「漫画やアニメなどのポップカルチャーと連携した企画展示（年1回）」と記載されているが、広島県立美術館でも夏にアニメ関連の展示を行っている。広島国際アニメーションフェスティバルも意識しているのかと思うが、広島県立美術館で行う内容とは違う発想で重ならないような展示を行ってほしい。

(事務局)

- ・ポップカルチャーと連携した企画展示は、民間の指定管理者が実施するものだが、広島県立美術館と同テーマにならないような企画が行われるものと考えている。

(上田委員)

- ・38ページの人員配置に「広島城三の丸歴史館の館長（学芸事業者）」という記載があるが、どのような意味か。学芸事業者とは、学芸員の資格を持っている者という意味か。

(事務局)

- ・学芸事業者から館長を配置するという意味であり、学芸員資格の有無を述べているわけではないが、学芸員の資格がある者であれば、それは望ましいとは考える。

(上田委員)

- ・学芸員資格がなくても館長を務めることができるという意味か。

(事務局)

- ・今後の人員配置を検討する中での調整になるため、明確に申し上げるのは難しい。学芸事業者側で適切な人材を配置していただくイメージである。

(上田委員)

- ・やはり、この規模の施設の館長は、学芸員資格を持つ方がふさわしいと思う。

(秋山座長)

- ・同感である。今後、学芸の現場を知らない方が館長となることもあり得るため、学芸員資格を持つ方を館長とする旨を明記していただきたい。

(城市委員)

- ・学芸員資格を持つ人間の大半は学芸員にならないという現状があり、学芸員資格保有者は毎年数万人単位で増えている。それにもかかわらず学芸員資格の有無で縛ってしまうと、学芸員資格を持たないが専門的な見識がある方を館長としてお迎えできなくなるのではないか。

(秋山座長)

- ・学芸員資格の有無ではなく、学芸の現場に精通している方を館長とする旨を明記してほしい。先ほどの意見を訂正する。

(上田委員)

- ・事務系の人間が館長となる場合、学芸職の人間が副館長となることがあるが、施設規模を踏まえると、広島市の事務系の方が館長になるような施設ではないと考える。市としてのスタンスを示していただきたい。

(秋山座長)

- ・次回の懇談会で、館長についての考え方を整理した上で説明していただきたい。
- ・三の丸歴史館は無休とされているが、この点について博物館の現場を御存じの城市委員に御意見を伺いたい。

(城市委員)

- ・展示替えが学芸員の重要な業務であるが、展示替えの最中は外部からの入場は避けなければならないため、展示室を閉室することになる。また古美術資料は資料保存を鑑みると1か月、最長でも2か月程度で展示替えをする必要が生じる。着物、甲ちゅう等、布を使用している資料も光に弱いため、2週間程度で展示替えが必要になる。こうした展示替えに対応するために、一般的な博物館では休館日が設定されている。
- ・三の丸歴史館の休館日については、2階のみ休館にする、1階も含め全て休館にする等の方法があると思うが、考え方を教えてほしい。

(事務局)

- ・休館日の設定を1階、2階で分けることも可能だと考えている。1階部分は観光案内所があるため無休、2階については広島平和記念資料館が年末を除き無休であることから、それと合わせた設定としている。

(秋山座長)

- ・エレベーター等の機器の保守点検も必要になるが、休館日がなくても問題ないのか。また展示のメンテナンスについても、人が入った状態では難しいのではないか。広島平和記念資料館とは様々な面で性質が異なるため、館の実態に即した設定が必要になるのではないかと考える。現時点で無休と決めると、後々不都合が多くなると思われるため、現場の意見を聴いた上で判断していただきたい。
- ・ここまでの議論を踏まえ、最後に発言しておきたいことがあればお願いしたい。

(金城一國齋委員)

- ・38ページの人員配置で、学芸職の想定として様々な専門分野が記載されているが、工芸に造詣の深い方も必要ではないか。また茶室の復元、上田家からの資料借用等を行うに当たって、上田家の歴史や茶道に造詣の深い方も必要ではないかと考える。それが難しい場合、外部アドバイザーにお願いいただくなど、柔軟な対応ができる組織としてほしい。
- ・三の丸歴史館は、城郭のみならず、広く広島文化を扱うという方向性が定められているため、外部の方の意見を集約するような懇談会等があってもよいのではないかと考える。

(上田委員)

- ・上田家の資料は幸いにも被爆を免れている上、上田家に伝わるものはほぼ浅野家に関係するため、家老上田家の資料を通じて浅野家を語る展示が可能になると考えている。公益財団法人上田流和風堂のテーマと三の丸歴史館のテーマが一致しているため、可能なことは協力したい。今後お互いにキャッチボールをしながら方針を詰めていきたいと考えている。

(事務局)

- ・本日頂いた御意見を参考に、来月を目途に広島城展示等基本計画を策定したい。
- ・第1回懇談会の際、新たな展示収蔵施設の基本設計に関する意見交換について、来年度懇談会を開催する予定である旨を御説明していたが、展示室内のゾーニングなど、設計を進める際の前提となる条件等について今年度から検討を始めたいと考えている。来年3月頃に第4回懇談会の開催を検討したい。

(秋山座長)

- ・それでは、これで令和3年度第3回広島城の展示整備に関する懇談会を終了する。ありがとうございました。